

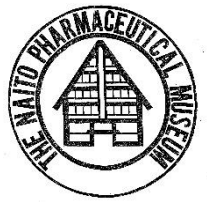
くすり博物館だより

The Naito Museum News

No.73

2019/6/28

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel.0586-89-2101 / Fax.0586-89-2197
http://www.eisai.co.jp/museum



2019年度企画展 薬局方のあゆみ—確かな品質のくすりを求めて— 2019年4月25日(木)～2020年3月29日(日)



内藤記念くすり博物館では2019年度、内藤記念科学振興財団と共催で、企画展「薬局方のあゆみ—確かな品質のくすりを求めて—」を開催しています。

医薬品の規格基準書『日本薬局方』を初版から最新版に至るまで解説し、薬局方の歴史や内容を紹介します。あわせて患者様に安心、安全な薬を提供するべく、現在でも行われている偽薬撲滅にむけた活動も紹介いたします。

企画展会場の様子

会場の入口は、薬局方にちなみ、本を開いた形をかたどっています。

薬局方とは

私たちの健康は、目に見えないルールブックにより守られています。そのルールブックとは、「薬局方」です。「薬局方」は医薬品の性状や品質、剤形や品質評価、その試験法等が記載された医薬品の規格基準書で、医薬品や化学物質の研究や製造を行う施設では必要不可欠なものです。「薬局方」そのものは、私たちが直接手に取って活用するものではありませんが、これに準じて医薬品が製造されていればその品質が公的に保証され、医薬品を安心して使うことができるのです。

昔から、医薬の専門家自身がまとめた薬の処方書は多数ありましたが、16世紀になって中世ヨーロッパの自治都市や国家により公的な基準として薬局方が制定されるようになりました。これにより、医薬品の品質が国家によって保証され、偽薬や重さをごまかした品が排除されるようになっていったのです。

アジアでは、中国が12世紀に国営薬局を開き、そこで用いられた『太平惠民和劑局方』が国定処方集のはじめとされます。日本では平安時代に日本固有の処方をまとめた『大同類聚方』が編纂されましたが、優れた中国医学の導入が進んだため、普及しませんでした。江戸時代にも幕府主体の薬局方は制定されませんでした。8代将軍吉宗の洋書解禁により、オランダから医学、薬学とともに薬局方が伝わり、次第に医師の間でも薬局方の重要性が知られるようになりました。

明治時代になると、海外から輸入された医薬品の中には低品質のものや偽薬、数量を偽ったものが多く見られたが、規制する法律がありませんでした。そこで『日本薬局方』が5年の歳月をかけて編集され、明治19年（1886）に完成しました。『日本薬局方』は今日17版を数え、医薬品製造の基本となり、医薬品の品質管理の向上に寄与するとともに、私たちの健康管理に貢献しています。



『(重刻太平惠民)和劑局方』

丸薬の処方が多く、伝統的な中国のやり方になじまなかったが、日本ではよく用いられた。

『大同類聚方』

日本固有の処方が記載された処方集であるが、現在残っている書籍は後世の作といわれている。



日本の薬局方のあゆみ

海外にすでにあった薬局方について、日本の医師らが知ったのは江戸時代のことで、蘭方医の宇田川榕庵（うだがわ・ようあん）が文政5年（1822）に『遠西医方名物考』に記載しています。オランダの「局方」は実際の診療のための薬物書であり、長年にわたるさまざまな処方が記載されていること、古くやたらと種類の多い処方を書き排して簡便な処方にしたり、同名の薬を整理することが行われていることと紹介されました。また、書名に「局方」の語が採用されたのは、中川淳庵が翻訳した『（嘉永五年）和蘭局方』が最初とされます。

海外から凶書を取り寄せるには困難が多かった時代に、薬局方の翻訳書や解説書が残されていたことから、当時の蘭方医の熱意がうかがわれます。

日本で薬局方が刊行されたのは明治時代です。明治4年（1871）に陸軍、翌年には海軍の薬局方が作成されました。明治8年（1875）、京都司薬場に赴任したゲールツは、大阪司薬場のドワルスとともに草案を作成しました。その後、ランガルト、エーキマンら医薬の専門家に日本人の委員が加わり、明治18年（1885）10月に『日本薬局方』初版が完成しました。

明治24年（1891）には、2年7か月にわたる改正作業を経て、日本人によってのみ作成された『改正日本薬局方』（第2版）が完成しました。この改正時には、「越幾斯篤拉屈篤（エキストラクト）」を「越幾斯（エキス）」というように薬品名を簡略化したり、カタカナ表記を導入しました。また、生薬には薬用部分を明記しました。



(左) 『日本薬局方』初版ラテン語版 04410
(右) 『日本薬局方』初版 官報版 04411



『日本薬局方』初版 官報版
内務省令として官報に掲載されて一般公布された。薬品は468品目収載された。明治20年（1887）7月1日より施行。

【改正した事項】

- 第三改正（明治39年/1906）●西洋の薬を漢字の音をあてていた表記からカタカナ表記とした。
例）古加乙涅 → コカイン
- 第四改正（大正 9年/1915）●化学薬品の記号や分子量を記載し、日本人の体格に応じて薬用量の安全な上限（極量）を改定した。
- 第五改正（昭和 7年/1932）●最近に対する効力試験法など公式試験法が導入された。
- 第六改正（昭和26年/1951）●文章は口語体とし、薬品名は五十音順で横書きに記載した。

これ以降も、比較試験法など新しい試験法を追加したり、毒性が問題となった薬品を削除したり、重量の記載を国際単位系に合わせて質量で記載するようになりました。また糖衣錠や胃で溶けない腸溶錠などの新しい剤形も採用されました。戦前は10年ごとに改正しましたが、戦後は急速に進む医薬品の開発や、医療をめぐる社会情勢の変化を反映させるべく、5年ごとの改正となりました。

一番新しい薬局方は平成28年（2016）に公布された『第十七改正日本薬局方』です。最新の学問や技術を導入し、薬品の製造や試験等に関する用語や定義、規定などが整備されました。また、輸入や輸出の増加に伴い、国際的な基準に合わせてたり、日本で規定されている試験法を海外に展開するなど、国際化も進んでいます。原案の作成も、編集委員が直接執筆するのではなく、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に原案を委託し、審査後に厚生労働省が薬事・食品衛生審議会に諮って、その答申を受けて告示する手順で行われるようになりました。次回の『第十八改正日本薬局方』は令和3年（2021）に公布予定です。

【第十八改正日本薬局方作成の5本の柱】

- ①保健医療上重要な医薬品の全面的収載
- ②最新の学問・技術の積極的導入による質的向上
- ③医薬品のグローバル化に対応した国際化の一層の推進
- ④必要に応じた速やかな部分改正及び行政によるその円滑な運用
- ⑤『日本薬局方』改正過程における透明性の確保及び『日本薬局方』の普及

江戸時代以降、暖簾(のれん)や看板を掲げ、商品を積極的に知らせるための宣伝広告に力を入れました。また、文政年間(1818-1830)の『江戸買物独案内(えどかいものひとりあんない)』では、薬屋をはじめ、江戸全域の店舗の広告が掲載され、薬が盛んに販売されていた様子がわかります。

しかし、当時は売薬の製造や引札の配布は自由で、オリジナルの製品を保護する特許制度や実用新案のような制度がありませんでした。そのため、誇大広告や類似品、偽物が横行しました。この対策として、江戸～明治時代には偽物への注意喚起、「本家」「元祖」などを強調した看板や広告類が多く見受けられました。

近年では、薬の高い付加価値に着目して、悪意を持って組織的に偽薬が製造される傾向にあり、製薬企業自体が国家や国際機関と連携して、偽薬の撲滅活動を実施しています。



看板「偽薬注意」
神教丸は本舗でのみ売っており、よそで売っているものは偽物であると注意を促す看板である。



ちらし「そめいさん」
中嶋太兵衛 江戸時代
にせ薬をいませるちらし。「近年まぎらわしきにせ天狗多く見へ候間御用の節は本家(太)御目印に御求め可被下候(くだされべくそうろう)」とあり、「正本家」と「にせ」を天狗の姿で表現している。本物の天狗が、にせ天狗に「(本物には)もうかなわぬ」と言わせている。

企画展図録 発売中です



薬局方の歴史と『日本薬局方』初版から第17版までをわかりやすく紹介しています。

A4判 69ページ
800円

とびっくす

第30回医学会総会2019中部に出展しました

2019年4月に開催される医学会総会の市民展示として、3月21日～4月28日まで名古屋大学博物館で医学史のサテライト展示が行われました。3月30日～4月7日まではポートメッセ名古屋にて、「本草なるほどミュージアム」と題し、本草学や養生に関する書籍などを展示しました。

同会場では、薬研体験や匂い袋作りを実施しました。春休みということもあり、体験には親子連れを中心に、330名の参加がありました。ブースへの来場者は約3,000名を数え、皆様に楽しんでいただけました。



ポートメッセ名古屋会場の様子



医学会総会のちらし

展示館を一部リニューアルしました

2018年10月より展示館10カ所をリニューアルしました。限定公開として本物の薬草図を展示し、あわせて薬草一つ一つに説明書きをつけました。

そのほかにも、薬研（やげん）に触れたり、白衣を着て撮影できるインスタスポットをいくつか設置しました。ぜひ、ご来館ください。



薬研体験の様子



白衣を着て撮影



薬草図

老舗の薬屋に伝わる薬草図で、表50種類、裏50種類の計100種類の薬草が描かれています。2019年9月末まで、実物を公開しています。（公開終了後は複製を展示します）

「薬草園フェスタ」

5月に「薬草園フェスタ」を開催しました。薬草園でボランティア活動をされている“友の会”の方を中心に、寄せ植えやアイの叩き染めなどの体験イベントを始め、苗販売や木工細工の販売、焼き芋や五平餅などの飲食スペースもあり、両日とも大盛況でした。各日、000名を超えるお客様にご来場いただきました。



友の会の販売ブースを散策

館内も大勢の来場者の皆さんでにぎわいました



体験コーナーに仲間入り！

体脂肪や筋肉量など体の組成を計測するための「体組成計」を設置しました。ご来館の折に、日々の健康管理にご活用ください。

展示館2階と本館3階の2カ所に設置しています。

オレンジカフェ開催中

エーザイ株式会社川島工園は毎月21日の午後、くすり博物館オレンジカフェを開催しています。認知症ご本人やそのご家族、地域の方々どなたでも参加できます。イベントに参加した後、カフェで楽しくお話ししましょう。



〈新任スタッフ〉

河村通孝

薬草園の管理担当として、日々植え替えや除草作業をしています。皆様に体験イベントで楽しんでもらえるよう、ただいま勉強中です。よろしく願いいたします。



〈お知らせ〉 日本薬史学会2019岐阜

10月26日（土）に当館にて日本薬史学会の年会を開催します。市民公開講座では、当館館長・森田宏による「認知症になりにくい食生活」の講演会も予定しています。無料で予約なしで参加できますので、皆様のご参加をお待ちしています。

内藤記念くすり博物館

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1 tel.0586-89-2101/fax.0586-89-2197

<開館時間>9:00-16:30 <休館日>月曜日、年末年始 <入場料>無料 博物館・薬草園とも最終入場時間は16:00

ウェブサイト「くすりの博物館」<http://www.eisai.co.jp/museum>